［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日　平成21年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1173101245
法人名	有限会社　まごころ
事業所名	グループホームほたるの里
所在地	〒360-0233　埼玉県熊谷市八木田497-1 （電　話）048-589-5177

評価機関名	社会福祉法人　埼玉県社会福祉協議会　福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529　埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65　彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月16日

【情報提供票より】（平成20年12月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成18年1月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18 人
職員数	18　人	常勤 15人，非常勤 3人，常勤換算 17.1人

（2）建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	1階建ての1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	48,000 円		その他の経費（月額）	15,000円＋実費
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（100,000円）		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日あたり　円			

（4）利用者の概要（12月1日現在）

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	8 名		要介護2		3 名
要介護3	4 名		要介護4		2 名
要介護5	0 名		要支援2		0 名
年齢　平均	80.4 歳	最低	57 歳	最高	93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	松本医院、掛川医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周囲に田畑や川があり、春には桜、菜の花が美しく咲き、夏には蛍が飛び交う自然に恵まれた静かでのどかな地にあり、開設して数年になる。近くには道の駅、スーパーマーケット、コンビニなどもあり、社会とのつながりや生活感がほどよくある地域である。建物は、広い敷地に木造平屋建ての2ユニット18室の居室と共有スペースがあり、ゆとりのある配置になっている。職員は、利用者があるがままの姿で生活の“主人公”になる場を作り上げていくために大切にする7項目を運営理念とし、日々ケアにあたっている。また、医療機関との連携を密にし、血液、心電図検査、2週間に1度の嘱託医による往診がある。毎日の食事では、利用者から希望や好みを聞きながら一緒に献立を立て、調理を楽しみ、よりおいしく摂取できるよう支援するとともに、健康管理に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の改善課題であった職員を育てる取り組みについては、資格取得のための研修参加の機会を確保しており、他の研修についても案内を受けた複数の研修要項を職員に提示し、希望により自己申告で参加している。受講後は研修報告書を作成・提出し、他の職員が読めるようにしている。職員間でもよい刺激となり、参加意欲の盛り上がりも見られるようになっている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

管理者は項目ごとに内容を提示して説明しながら考えや意見を聞き、集約してまとめている。自己評価に取り組むことで、職員は充実したケアについての気づきを得ている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議の構成メンバーは、地域包括支援センター職員と地域住民、利用者、家族、職員の各代表である。平成20年4月に今年度第1回目の会議を開催している。今後は徐々に回数を増やし、報告、話し合い、意見を出し合う場を設け、サービス向上に役立てたいと考えている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

毎月、利用者の各家族に食事、排泄、入浴、睡眠、生活の様子などを報告するとともに、行事の写真なども送付している。また、金銭出納簿とレシートなどの金銭管理状況も一緒に同封している。面会や電話などで家族と話をする際には、意見や要望などを聞くほか、年に1回家族会を開催し、家族同士の顔合わせと親睦を図って相互で話をしてもらう機会を設けている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入し、できる範囲で地域活動に参加している。散歩の折などに地域の方とは挨拶を交わしたり、話をしたりして交流を図っている。また、地域の夏祭りでは子ども神輿が事業所に寄ってくれるようになり、利用者も歓迎している。その他、地域の婦人会の方達から花見に誘ってもらったり、近所から野菜が届くなど、地域との交流が徐々に深まってきている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** **地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている**	利用者があるがままの姿で生活の“主人公”になれる場を作り上げるために大切にすることを7項目挙げ、分かりやすい言葉で事業所独自の理念を掲げている。その中の一項目「地域に密着した、その人らしい人間関係を大切にする」は、地域密着型サービスとしての理念である。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** **管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる**	ホームへの出入り時に理念が目に触れるよう、玄関に掲示している。朝･夕の申し送りやミーティング時に理念に触れ、業務の中での気づきについて意見交換し合い、確認しあいながら日々実践に努めている。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** **事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている**	自治会に加入し、できる範囲で地域活動に参加しているほか、散歩の折などに挨拶を交わしたり、話をしたりして交流を図っている。また、地域の夏祭りでは子ども神輿が事業所に寄ってくれるようになり、利用者も歓迎している。地域の婦人会の方から花見に誘ってもらったり、近所から野菜が届くこともあり、地域との交流が徐々に深まってきている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** **運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる**	管理者は項目ごとに職員に内容を提示･説明しながら考えや意見を聞き、集約しまとめている。また、自己評価に取り組むことで職員は充実したケアについての気づきを得ることができている。なお、前回の改善項目については改善に取り組み、成果が見られている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** **運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている**	運営推進会議の構成メンバーは、地域包括支援センター職員と地域住民、利用者、家族、職員の各代表である。今年度は平成20年4月に第1回の会議を開催しており、今後は徐々に回数を増やし、報告、話し合い、意見を出し合う場を設け、サービス向上に役立てたいと考えている。	○	運営推進会議に向けての努力は評価できる。今後は地域包括支援センター職員と力を合わせ、一層地域の協力と理解が得られるよう構成内容に工夫を重ね、定期的な開催により充実させていくことが期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課へは提出書類などを直接届けたり、空き室状況等の報告や相談に積極的に出向いて連携を図っている。また、当ホームのパンフレットも置いてもらっている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の家族に食事、排泄、入浴、睡眠、生活の様子などを報告するとともに、行事の写真なども送付している。また、金銭出納簿とレシートなどの金銭管理状況も一緒に同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、電話などで家族と話をする際に意見や要望なども聞くようにしている。また、年に1回食事会を兼ねた家族会を開催しており、家族同士の顔合わせと親睦を図って相互で話す機会を設けている。なお、要望には可能なことから対応するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はあるが、平素からユニット間の交流がある。利用者は職員と顔見知りの間柄でもあるため、異動によるダメージは少ない。離職の際は新･旧職員の重複期間を設けたり、他の職員がカバーし、利用者への影響を少なくするよう配慮している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関する研修参加の機会を確保している。その他の研修については、研修案内を受けて自己申告により参加している。受講後は研修報告書を提出し、他の職員にも情報を提供するようにしている。また、内部研修については、職員の自発的なもの（技術研修など）が行われるほか、年数回の定例の会議などでも相互に切磋琢磨している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の近隣4ホームによる交流会や北部地域のグループホーム協議会の勉強会などに参加しており、情報交換することでサービスの向上に役立てている。また、同一法人のホーム職員、利用者とも相互に訪問し合っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	**○馴染みながらのサービス利用** **本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している**	利用開始までに自宅やホームを訪問し合い、職員や利用者と顔を合わせる機会を多く持つことで、ホームの雰囲気に慣れてもらい、馴染みの関係を作るようにしている。また、家族には利用者が新しい生活に慣れ、安定した日々を過ごせるようになるには約3か月要することを説明し了解を得ている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	**○本人と共に過ごし支えあう関係** **職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている**	居室や共有の場の掃除、洗濯、食事づくりなどできることを職員と共に行い、趣味やレクリエーションへの参加を通して一緒に楽しんだり、喜んだりしている。これらを通じ、利用者から教えてもらうことも多く、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	**○思いや意向の把握** **一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している**	日常会話の中から利用者の個性や好みを知り、暮らし方に対する意向などを把握するよう努めている。把握が困難な利用者には、思いを表しやすい雰囲気づくりを心がけながら意向を推し測るなど工夫している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** **本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している**	全職員が記載したアセスメント表と家族、本人からの要望を基に、担当職員と計画作成担当者が仮の介護計画を作成し、全職員で検討した上で完成させている。その後、家族の同意を得て正式な介護計画としている。		
16	37	**○現状に即した介護計画の見直し** **介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している**	定期的な見直しは6か月ごとに実施している。月例会議で行う利用者一人ひとりの状態に関する検討や状態の変化などにより変更の必要性が生じたときは、本人や家族より聴き取りを行い、現状に即した介護計画を新たに作成している。また、初回の介護計画については、利用開始から1か月くらい経過し生活に慣れた頃を目途にして作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	**○事業所の多機能性を活かした支援** **本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている**	家族による通院介助ができないときはホームで対応するなど、状況に応じて支援している。また、お盆や正月の受け入れが可能な状況にある家族には外泊支援をしている。家族からホームへの宿泊希望があり、居室に泊まってもらったこともある。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	**○かかりつけ医の受診支援** **本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している**	2週間に1度、嘱託医による往診がある。また、定期的に血液検査、心電図をとってもらっている。利用前のかかりつけ医の受診を継続している利用者もいるが、月1回は嘱託医の往診を受けてもらうようにしている。		
19	47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** **重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している**	重度化に伴う看取りの方針を設けている。現在、対象者はいないが、かかりつけ医と繰り返し話し合う機会をもっている。今後は、家族から要望があれば医療と連携し、ホームとして対応し得る対策を検討しながら受け入れていきたいと考えている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	**○プライバシーの確保の徹底** **一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない**	個人情報が記載してある書類は扉のある棚に保管し、関係者以外の目に触れないよう配慮している。また、トイレへの誘導などでは自尊心を傷つけないよう、さりげなく言葉がけをしており、朝･夕の申し送り時には、室外に内容が聞こえないよう留意している。		
21	52	**○日々のその人らしい暮らし** **職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している**	基本的に一人ひとりのペースを大切にし、ゆっくり過ごしてもらうよう努めている。入浴、レクリエーション、体操などでもその日、その時の本人の気持ちや希望を尊重し、個別性のある支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食べたい物を出し合いながら、利用者と職員が一緒に献立を作成している。時には、食材の買い出しに一緒に出かけることもある。利用者は芋の皮むき、大根切り、稲荷ずしのすし飯詰めなどを楽しんで作ったりしており、職員も一緒に見守りや会話をしながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも週2～3回入浴している。希望があれば時間帯、回数は制約せずに支援しており、個浴でゆっくりと、本人のペースを大切にしながら楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事作り、洗濯や菜園など、好きなことや得意分野で力を発揮してもらい、利用者一人ひとりの役割や楽しみ、気晴らしになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は周辺の散歩に行くほか、スーパーマーケットへの買い物や近隣の道の駅へ出かけ、レストランでおやつを食べるなど外出を楽しんでいる。また、ホームの菜園での野菜作りや収穫を楽しみむなど、外気に触れることが出来るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、交通量の多い国道もあり、事故･事件防止のため玄関には施錠している。ユニット入り口は開放しており、玄関のような役割をしているため、閉塞感は感じられない。職員は見守りの方法をとり、利用者の要望があれば、いつでも対応している。居室には本人や家族の希望で施錠しているケースもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日チェック表により点検を実施している。また、今年度、近隣の協力が得られるよう建物の西側と東側に非常ベルを設置した。消防署の協力を得るなどして、避難訓練を定期的に実施しているが、地域住民の参加、協力などを得るには至っていない。	○	災害対策について着実な取り組みをされている。非常時は地域の協力が不可欠であり、避難誘導を迅速かつ安全に行うためにも地域住民への協力依頼を継続し、検討していくことが期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材のバランスを考えた献立が作成がされており、個々の主食、副食、水分の摂取量をチェックし、毎日、毎食生活記録表に記録している。利用者の希望により、粥食も提供している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、手すりや補助バーが随所に施されており、安全面の配慮がされている。廊下、トイレ、リビングはゆったりした広さがあり、リビングには椅子、和室にはコタツが置かれ、利用者が思い思いの場でのんびり過ごせるようになっている。採光も十分で明るく、窓越しに周囲の風景を見ることができ、季節の移り変わりを感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	24時間換気がされており、室温は本人の好みに合わせて調節されている。居室の入り口には、新年にふさわしい飾り付けがされていた。室内には使い慣れた馴染みのあるタンスや仏壇がなどが持ち込まれ、利用者一人ひとりの個性のある居室作りがされている。		